

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101560		
法人名	医療法人たくふう会		
事業所名	グループホーム津島の里		
所在地	岡山市北区津島京町1丁目5-18		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成30年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・母体のクリニック医師・看護師と24時間医療連携が図れており、医療面で安心してご利用いただけます。また、ご希望により看取りまでの対応を提供させていただいております。身体が不自由な方にも入浴していただけるように特殊浴槽を完備しており施設での生活を安心して継続していただけます。
 ・食事の盛り付けや配膳、洗濯物などの家事を共同で行い、日常生活に役割を持ち意欲的に過ごしていただけるように努めています。歌などのボランティア、季節を感じる事の出来る行事や散歩、地域の行事への参加などを通して気分転換や生活を楽に楽しむことが出来る工夫を行っています。
 ・ご家族の協力によるミニ畑で花を摘んだり、野菜を収穫して調理に活用するなど季節感を味わっていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体のクリニックによる定期的な往診と24時間の連携により、安心した生活に繋がっています。入居者に家事や畑仕事などそれぞれが日常生活の中で役割を持ち、意欲的に過ごせるように、ご家族の協力も得ながら取り組んでいます。職員のスキルアップにも積極的に取り組んでおり、本部が作った研修会計画表をもとに、研修へ必要な職員が参加できる仕組みができています。また、西日本豪雨では事業所が水害に遭われましたが、無事に避難(2階へ)が行われ、その時の経験や反省点を活かし、備品の購入など取り組み、今後の対策が図られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お一人お一人がその方らしい生活を維持継続できるように工夫し、全職員が理念を共有し実践できるように努力しています。	職員全員で理念の共有を行い、入居者に統一した支援ができるよう努めています。年二回の面談を通して、管理者や職員は事業所理念の共有を行い、支援の実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には毎回地域の方の参加をお願いし、ご助言や地域の情報をいただいています。地域の一員として町内の行事などに参加させていただいています。	運営推進会議で町内会長や市の職員から町内や、ふれあいセンターでの催しを聞き、参考にしながら行事予定に組み込み、地域との繋がりを大切にしています。また、今年の水害時には町内の方が状況を知らせてくれるなど交流が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者と一緒に地域活動に参加させていただいたり、運営推進会議で認知症について理解していただけるように話をさせていただくなどしています。また、グループとしてオレンジカフェや介護予防教室の開催などを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の方から頂いたご意見をカンファレンスで共有し、サービスの向上に努めています。	毎回半数ほどの家族の参加もあり、意見交換や情報収集のほか、入居者の日常を記録した写真をスライドで紹介するなど、事業所の様子を見てもらえる機会でもあり、サービス向上に活かす取り組みをしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議にご参加いただいたり、参加いただけなかった時は議事録を持参し、事業所の実情や取り組みをお伝えし協力をお願いしています。	運営推進会議での情報交換以外にも何かあれば連絡が取りあえるよう、日頃より協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関については防犯上施設していますが、身体拘束・虐待防止委員会を3か月ごとに開催。全体としても定期的な研修の実施や事例などを話し合いながら、日々の介護の中で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	現在身体拘束を必要としている入居者はいませんが、定期的に委員会を開催し、正しい理解を身につけられる様努めています。	今後も継続して、職員だけでなく、家族にも身体拘束についての正しい理解を広めていくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を中心に虐待防止関連法について定期的に研修を実施。事例検討や接遇についての話し合い、自分たちのケアの見直しを行い虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修を実施。成年後見制度を活用する方も増えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時の説明のときに不明な点などはないかを確認し、ご理解・納得頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	“ご意見箱”を施設内に設置しています。また、面会時や運営推進会議時にご意見・要望などをお聴きし、運営に反映できるように本部とも話し合いを持っています。	家族とこまめに連絡を取り、日頃より意見や要望を聞きやすい関係に努めています。また、秋には家族からたくさんの柿をもらい、入居者と職員で干し柿を作るなどして日々の生活の中に、家族とのかかわりを大切にしたい取り組みが窺えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回のカンファレンスや年2回の個人面談の他、日頃から職員が意見や提案をし易い環境整備に努め、それらを吸い上げ、本部とも話し合いの機会を設け意見が反映できるように努めています。	管理者と職員の面談の他、管理者会議や本部と管理者の面談などもあり、代表者に意見や提案を表せる機会を積極的に設けており、意見の反映に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、職員が働きやすい職場環境・条件となるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仕事を通しての助言だけでなく、法人内研修への参加や、一人一人の能力に応じた外部研修にも参加できるように年間計画を立てて行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部・グループ内研修、他部署の現場実習などへの参加を通して同業者等との交流や意見交換を行い、サービスの質が向上していけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を傾聴・情報収集に努め、職員間で情報を共有し早期に信頼関係が築けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困っていることなどを聴き、また、こちらからも不明な点などはその都度お尋ねし、良好な関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ソーシャルワーカー、ケアマネからお問い合わせや見学があった際、話し合いを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の生活歴や興味のある事柄をお聴きし、日々の家事を共同で行ったり、できる事のお手伝いをお願いするなどしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間の設定はありますが自由に面会していただけるようにしています。また、ご家族来所時や毎月のお便り、電話などでご様子をお伝えし、共に支えられるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけだった美容師の方に毎月訪問してもらったり、知人の面会、ご家族の協力による外出などが行えるように支援しています。	一人ひとりの入居者のさまざまな場面を通して、馴染みの方々が気持ちよくなかかわれる様、関係が途切れないよう心掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り共有スペースでお過ごしいただけるように工夫し、利用者間のトラブルが起こった時は職員が間に入ったり、席替えを行ってみるなど皆が良好な関係を持てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後もご家族がボランティアとして訪問して下さるなど、良い関係が切れないようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス時に定期的にケアプランの点検など、ご本人が安心して生活が送れるように話し合いを行っています。	担当職員を中心に職員全員で、入居者一人ひとりについて話し合い、その時々に応じた支援ができるように、本人の希望や意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・フェイスシートの活用、ご本人やご家族との日常会話を通しての生活歴や暮らし方などの把握をし、職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々心身状態が変化するのでその都度状態を把握し、申送りノートを活用しながらその時々に応じた対応ができるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化に応じて素早く対応できるようにとカンファレンス時にモニタリング・話し合いを実施しています、ご本人・ご家族の意向も確認しながら現状に即した計画作成に取り組んでいます。	家族にも事前に必ず意見を求め、本人や家族の意向に沿った、現状に即した計画作成ができるよう職員全員で話し合い、入居者により良い支援ができるよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申送りノート・カンファレンス記録などを通して情報共有を行い、実践・計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人お一人の状態把握に努め、ご本人・ご家族の意向に沿えるようにアイデアを出し合いながら工夫し、密な医療連携も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物同行や地域の行事参加、飲食店の活用など生活を楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医師・看護師との24時間の連携体制や医師の定期訪問診療により適切な医療が受けられるようにしています。	現在の入居者は全員母体クリニックの主治医にかかっており、24時間連携体制が図られています。必要時には他機関へ職員同行のもと受診も出来るよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の定期訪問、医療連携ノートの活用、24時間医療連携体制により相談できる環境は整っており、適切な医療や看護が受けれるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかな情報提供に努め、入院中もご本人との面会を含め医療関係者と情報交換を行ない早期に退院ができるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時に重度化した場合について説明と同意を得ています。状態の変化により早い段階からご本人・ご家族の意向確認に努め、状況により医師・看護師からご家族に説明をもらい、職員も医師・看護師と情報共有しながらカンファレンスで終末期の対応を話し合っています。	希望があれば、看取りも行われています。入居者の状態に合わせて、家族や医師、看護師とも綿密な連携を図りながらチームで支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による指導やグループ内研修、カンファレンス内での研修で初期対応や事故発生時の対応をなどの確認を行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害などを想定した避難訓練を定期的実施しています。また、運営推進会議などを通して協力体制の確認を行っています。今期は夏に水害避難(2階へ)があり、皆が実践できるように反省点などについても話し合いました。	今年の豪雨で排水ポンプが浸かりトイレが使えなくなったので、ポータブルトイレを使用したのが汚物処理がうまくできなかった。その経験を活かし、ペット用の排泄用シートを購入したり、非常食を活用すればよかった等反省点を活かしながら次への訓練に繋げています。	現在、土嚢の準備について検討中ということですが、今後も災害時の避難訓練に地域との協力体制の確認も視野に入れながら継続していかれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年2回の自己評価の他、接遇についての話し合いや事例の検討などをカンファレンス時に行っています。パットなどの使用が他者にわかりにくい工夫をする等プライバシーの保護に努めています。	接遇についての話し合いや検討を重ねることで、職員全員が入居者の尊重やプライバシー保護への理解を深め、適切な対応が行えるよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	過介助にならない事も含め、ご本人のペースや希望に合わせた生活支援が行えるように声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活リズムを大切に過ごせるように支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容に2か月ごとに来てもらい利用してもらっています。また、自己決定できる方はその日の衣類を決めていただくようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、盛り付けや配膳、後片付けなど個々の力を活かしながら一緒に行っています。	三食手作りで畑で採れた季節の野菜を使った食事は、喜びと楽しみに繋がっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量チェック表を活用し摂取量を把握している他、毎月の体重確認にて栄養状態の確認を行っています。摂食困難な場合は食事形態を工夫したり好物の確認をするなどして対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全入居者の口腔ケアを実施。ご本人で行えない場合はスタッフが介助しています。また、必要に応じて訪問歯科を利用いただいたり、歯科から口腔ケアに関する助言をいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用してお一人お一人の排泄リズムを確認し、定期的にトイレ誘導を行ないできる限りトイレで排泄が行えるように支援しています。	個々の自立度に配慮しながら気持ちよくトイレで排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認や食事内容の工夫、体操、腹部マッサージなどを取り入れながら毎日排便確認を行っています。医師との連携・相談により早期の便秘解消に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人お一人の体調を考慮し、ご希望に添えるように配慮して入浴をいただいています。身体状態に応じては特殊浴槽を使用した入浴にも対応しています。	入浴拒否の人・入浴が困難な人・場合など、日にちや時間を考慮しながら個々に添った入浴支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に応じ、ご本人のペースで自由に休んでいただけるように対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化の確認に努め、内服薬については薬情報書や送りノートで目的・用量などの情報共有を行っています。医師・看護師と連携を図りながら服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活を大切に、家事などの役割を担ってもらったり、計算や色塗り・軽作業などを提供する等の工夫を行い、張り合いのある日々が送れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩や本人の希望による外食や買い物、行事でのドライブといった外出支援の他、ご家族による外出もしていただいています。お天気の良い日には屋外でのお茶会なども行っています。	日々の外気浴として、家族が植栽や金魚、めだかなど事業所の敷地内でも楽しめるようにしてくれています。散歩など取り入れながらの日常支援や行事計画を立て四季折々のドライブなども行なっています。	介護度が上がりなかなか外出しにくくなったと実感されているようです。家族の協力も得ながら、今後も今されていることの継続と、発展をされていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理は施設が行っていますが、ご自身の必要品や嗜好品を購入した時は支払いをしてもらうなどしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話希望に対応し、ご家族にも協力いただいています。また、葉書を出す支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全確保に努めながら、居心地良く快適に過ごしていただけるようにしています。また、壁画などは季節感を感じられる壁画を入居者と一緒に作成したり、日頃の風景写真を掲示し会話が弾むようにしています。	居間兼食堂はそれぞれにあった机の配置、またくつろげるソファの設置もされ、季節を感じられる飾りや、写真展など、暖かい雰囲気です。過ごしやすい共用空間となるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせる席の配置や、一人でくつろげる空間を工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものや思い出の品、観葉植物などを自由にお持ちいただくなどして、居心地良くお過ごしいただけるようにしています。	ソファやタンスなど使いやすいもので居室づくりがされており、又、仏壇を持ち込まれている方は、庭で摘んだ花を供えたり、思い思いに過ごせる様に支援している様子が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレ、浴室などがわかりやすいように自身で塗った絵や文字で表示をするなどの工夫をしています。		